

日本が誇る中小企業の“モノづくりのワザ”の素晴らしさ、仕事のおもしろさを子どもたちに伝えるため、あんしん財団ではさまざまな場所で子ども向けワークショップを開催しています。
 今回は、2018年12月15日(土)に、震災から復興を目指す熊本市で実施。“ワザ伝”がつかないだ、東北と熊本の被災地間交流についてもお伝えします。

モノづくりの楽しさを体験!!

ワザ伝プロジェクト in くまもと
 キッズワークショップ2018を開催しました



2018年12月15日(土)、熊本市・熊日RKKびぶれすスタジオで行われた「ワザ伝プロジェクト in くまもと」。放課後NPOアフタースクールの協力のもと、あんしん財団が主催。地元から多くのご家族に参加いただきました。



金属ってどうやって加工するの？
 「精密コマ」づくり体験

2018年3月福島、8月東京に引き続き、ワザ伝プロジェクトにご協力いただいた東北の仙南マシクラブの皆さん。日本一の精密コマを通して、子どもたちに金属加工について伝えていただきました。
 金属の加工法や、手にして感じた重さ、その価値を知って子どもたちは興味津々。実際に自分だけの精密コマをつくと、一心不乱にコマを回していました。「はっけよい、のこった！」—つくったコマで行われる大会では、1年生の決勝戦進出や、兄妹対決など、声援にも力が入り、大いに盛り上がりました。

仙南マシクラブの皆さん



(株)岩沼精工
千葉厚治氏



イケダ工機(株)
池田広史氏



日本の伝統工芸「水引」で
 自分だけのしおりをつくろう

指導は水引の国内シェア約7割を誇る長野県飯田市の飯田水引プロジェクトの皆さん。鶴や亀、松の木などきらびやかな水引の作品には子どもたちもぎ付きに。水引が紙でできていると知ると、5～6年生でも驚きの声を上げていました。
 体験では、基本のあわじ結びを学べるしおりづくりに挑戦。はじめは手探りでしたが、慣れてくるとスルスと編み上げていきます。「今度はキレイにできた！」「家でもやりたい！」。お土産にも水引をもらった子どもたち。「家でもつくる」と喜んでくれました。

飯田水引プロジェクトの皆さん



(株)カラサワ
唐澤秀宜氏



(株)喜久優
渡邊浩平氏



飯田商工会議所
井坪伸治氏



精密コマ



水引のしおり



電子オルゴール



初めてでもうまくできたよ！



熊本高等専門学校の皆さん

【初出展】はんだ付けに挑戦！
 電子オルゴールをつくろう

今回、地元・熊本高専の皆さんにもワークショップを開催していただきました。ボランティアの生徒さんたちが教えてくれるのは電子オルゴールづくり。本格的な“はんだ付け”を行い、電気音のなるオルゴールを自分の手でつくります。
 ニッパーでコードを切ったり、プザーを取り付けたりと、子どもたちには初めての体験ばかり。「モノづくりの楽しさは、子どものころに体験してほしいんです。日本のモノづくりが世界の最先端であり続けるためにも、子どもたちに今日得た刺激を持ち帰ってほしいですね」と、熊本高専教諭の石田氏。生徒の皆さんも「モノづくりが嫌な思い出にならないよう一対一で慎重に、誰でもできるということを伝えたいです」と語ります。
 スイッチを入れ、音楽を奏でるオルゴールを手にした子どもたちは皆、どこか誇らしげでした。



基盤、スイッチ、メロディーIC、コンデンサなど、小さく単機能であっても、それは手のひらサイズの“機械”。子どもたちの顔も、真剣そのもの。

参加者VOICE

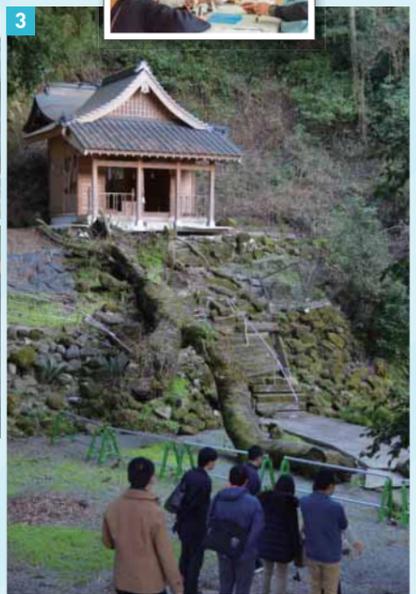
- 【精密コマ】おもちゃのコマと違って精密だから、ずっと回っていたので、すごかったです(5年生)
- 【精密コマ】金属加工のことについて、もっと知りたいです(5年生)
- 【水引】難しかったけど、楽しかった。本を読むのが好きなので、しおりとして使いたい(6年生)
- 【水引】家でもつくって、おばあちゃんにプレゼントしようかな(1年生)
- 【電子オルゴール】機械をつくるのは初めてで難しかったけど、できた。またやってみよう！(1年生)

“ワザ伝”プロジェクトで被災地に笑顔届けよう！
 あんしん財団が大切にしているミッションです
 「東北×熊本」被災地の“いま”を知る交流を実施

「ワザ伝プロジェクト」開催前日の12月14日、2011年に東日本大震災を経験した仙南マシクラブの皆さんが、16年熊本地震の被災地・益城町を訪問。地元で子どもたちや避難生活を送る人々を支援する木村由美子氏と、被災地の被害、復興のいまについて話ししました。「避難先に住み続ける人などがおり、震災以来、益城町の人口は約1,500人減少しました。道路や住宅が新たに建設されていますが、復興にはまだ時間がかかります」と木村氏。震災の大きさを物語る場所へ案内してくれました。
 仙南マシクラブの皆さんも「震災で子どもたちが受けたストレスは計り知れない。モノづくりだけでなく、遊ぶこと、楽しむことの大切さを子どもたちに伝えていきたいです」と語りました。
 あんしん財団は、被災地の現状を伝え、地域に寄り添い、復興を支援する活動を続けてまいります。



2018年3月には福島で「ワザ伝」を開催(写真左)。熊本では、2年連続で開催となりました(写真下)。



訪れた場所は“震災の記憶”として、そのまま保存されるそう。1 2本の活断層がV字に出現(国内初)した民家。国指定天然記念物に。2 NPO法人子育て応援おきな木の木村由美子理事長。3 生活の水を支え、子どもたちの遊び場でもあったという「潮井神社」。